

令和3年度 第1回南部町教育協働みらい会議 議事録

開催日時 令和3年7月20日(火)
 午前10時50分～午前11時55分
 開催場所 キナルなんぶ 多目的ホール
 出席者 陶山町長、井上教育委員、板教育委員、瀬田教育委員、畠教育委員
 土江副町長、福田教育長
 事務局 大塚総務課長、岩田教育次長、水嶋総務・学校教育課長
 書記 人権・社会教育課 大塚課長補佐
 傍聴人 なし

	【1. 開会】
大塚総務課長	開会 午前10時50分
	【2. 挨拶】
陶山町長	今月は大雨で災害対応があったり、県西部でのコロナの感染拡大などがあり、心配の多い1ヶ月であった。気を引き締めて町民の皆様とともに感染拡大を止めたい。人の力を信じた
	い。
	【3. 意見交換】
土江副町長	1)「コロナ禍の人権(子ども達の活動)」について まず、議題提案された町長から概要を説明いただく。
陶山町長	このコロナウイルスは色々な課題を残す。エビデンス、世論の力で翻り、子どもの発信するSNSで社会が変わる。若者がSNSを使い社会を動かしているが、割り切れない思いがいろいろな立場である。コロナが終焉した後に何を残していくか。ワクチン接種についても若い世代は打たない人が多いようだ。どんなスタンスによって臨んでいくか、話したい。
土江副町長	教育委員から順にご意見、ご提案をお願いします。
井上委員	今回の高校野球の件はメディアの発達がなかったらできなかった。SNSで世論を動かせることがわかったことはプラスに作用するのではないかと。しかし、良いことに使うように教育する必要はある。子どもが罹患したとき、学校で陽性者が出た時の手立てを考えておく必要がある。差別・いじめにあわないようフォローする。
畠委員	子どもたちのことに大人がどう動いたか、寄り添って考えたか物事を冷静に受けとめる。12歳以上の子どものワクチン接種は確かな情報が発信されると大人が判断できるのでは。
板委員	非常に情報が多いなかで正しい確かな情報提供を選ぶ。大人は何を頼りにしたらいいのか。小さな町の噂話で間違った情報を口にする恐れがある。情報がわかりにくく、何が正解かもわからない。そのなかでも正確に伝える必要がある。
瀬田委員	SNSの力で出場するのはいいが、様々な危険性をはらんでいる。間違った情報を拡散してしまうことも考えられる。町内で感染者が出た場合、犯人捜しにならないようにすべき。町をあげて警戒していく必要がある。若者の考え方、一人ひとりの若者のリスクが優先されている気がする。大事なことは拡大することによって周りの人に及ぶ危険を考えること。支え合いができるよう今一度一人ひとりがよく考える。子どもの考えは親の考えを反映していることを町民が理解する。
福田教育長	コロナに関しての問題提起は様々あるが、きちんと整理できていないといけない。きちんと説明でき、判断できるもので、行動する。なんとなくやっているものではなく、説明できるものを。これはコロナ禍に限らず、大雨などの災害にもあてはまり、きちんと

	情報を伝えることが重要だ。町民に加害者を出してはいけない。
陶山町長	<p>社会に出ると理不尽さにあふれている。ルールによって自分の人生や希望が変えられる社会の中でルールを作るとき人に説明できるかがポイントとなる。一定社会では非情で残酷なものとなる。教育はそういう多くのことを学び、このコロナ禍は色々な事を残してくれと感じている。</p>
土江副町長	<p>2)「地域振興協議会(地域)とのかかわり」について 教育委員より提案の概要を説明ください。</p>
井上委員	<p>地域振興協議会の公民館活動は他の地域と連携がない。その地域だけでない横のつながりが活力になる。教育委員会はどうかかわっていくのか、単に協議会任せではなく、かかわりを持ち、町外の離れたところとの交流もできたらいいと考える。</p>
陶山町長	<p>社会教育の範疇かどうかはわからないが、地区公民館は何をすべきところか、今の社会の中で公民館の役割を担う必要があるか考えたい。地域振興協議会は地域で必要な事をする。公民館は公民館部、地域活動として行っている協議会もある。地域の方の判断でするかしないかを決める。</p>
福田教育長	<p>町には南部町公民館とさいはく分館の2館ある。公民館部など、協議会には活動メニューを紹介するなどしていたが、外とのつながりや新しい見方、子ども会のあり方が一番重要なこととなっている。</p>
瀬田委員	<p>CSの委員をしていると、CS委員とのつながりはあるが、子どもたちと地域の方々とのつながりはまだない。もう少しつながるきっかけがあつたらいい。子どもたちが地域に根付いて、地域の人とともに学べるとよい。</p>
板委員	<p>地域振興協議会はそれぞれのカラーで取り組まれ良い点も多いが、振り返るとどこも似たようなことが言える。イベントも同じで、賑やかなのはいいが少し交通整理されるといい。</p>
畠委員	<p>夏祭りなどオープンにしておられるのは、交流になっていい。「まち未来会議」の実現に大人や協議会が協力できるといいのではないか。</p>
井上委員	<p>南部町のコミュニティを大きくしたい。小さい時からの交流で地域別(協議会別)よりも大きな範囲で日頃から交流する働きかけができればいい。</p>
土江副町長	<p>最後に教育長から総括をお願いする。 【4. 挨拶(総括)】</p>
福田教育長	<p>いま最も考えなければならないことは、罹患した町民、罹患していない町民のどちらも町が守るということである。そのためにみんなで全力をあげ、子どもも大人も情報に振り回されず、よりよい判断をする。自分の心地よい話は情報操作によるものが多いので、情報に関して考えていくことが大切である。コロナによって見えてきたものをしっかりと確認するものとしてほしい。合併して生まれた「南部町」であり、一つの町として、小さいころからの交流によって「南部町」を大切に思ってもらいたい。</p>
	【5. 閉会】
大塚総務課長	<p>子ども達も夏休みに入り、地域家庭で一步成長する。町民にとっても大事な一年になる。協力して成し遂げたい。</p>
	閉会 午前11時55分